

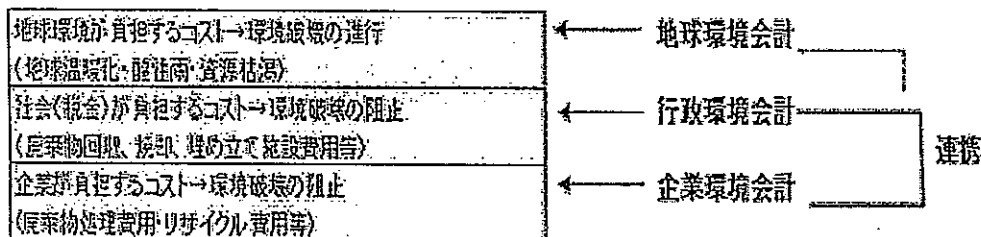
容器包装リサイクル環境会計

1) 社会的役割を担う「社会的環境会計」について

現在、産業界では環境マネジメントツールとしての「環境会計」の導入が盛んです。しかし、現在取り組まれている環境会計は投資家を中心とした経済的ステークホルダーに対する企業の環境コスト情報（環境コストとその経済的効果）開示を主目的とする「外部公表目的環境会計」と企業のコスト効率的環境活動推進のための「内部管理目的環境会計」が中心です。これらはいずれも環境会計を経済的ツールとして捉えています。環境会計が社会的に有効なツールとなるには社会問題としての環境問題解決のために社会への情報開示を目的とした「社会的環境会計」と呼べる環境会計が必要となってきます。

環境会計は下図にもあるように企業環境会計と行政環境会計、地球環境会計の3つの環境会計が合わされて構成されると我々は考えます。この概念は下記の様な考え方に基づいています。

- ・企業や人間が活動すれば環境負荷が発生する。
- ・この環境負荷の発生を環境コストの発生ととらえる。
- ・企業や行政は環境活動にコストを費やすことで支出された金額分の環境負荷が解消されると考える。
- ・ここで問題は企業や行政が支払っている環境コストではカバーしきれない環境コストを我々は発生させていると言う事実。
- ・そのコストは地球環境が「環境破壊を進行させる」という形で支払っている。
- ・今重要なのはこの地球環境が支払っている環境コストを早急に企業や行政が肩代わりすることで、環境破壊の進行を阻止することである。
- ・そのためには企業がどのような環境活動にどれくらいコストを費やして、どのような効果を上げているか。同じく行政もどのような環境活動にどれくらいコストを費やして、どのような効果を上げているかを情報公開すること。
- ・開示された情報を元に社会的議論を行ない、連携することで、企業、行政を含め社会的に最も効果的な環境負荷の削減活動を探る。→環境会計の社会的ツール化



2) 社会的環境会計としての「容器包装リサイクル環境会計」

容器包装のリサイクル活動コストは企業のコストと自治体の資源回収等コストにより構成されます。これまでリサイクルに係わるコスト情報はあまり公開されていませんでしたが、企業が容器包装リサイクルに費やすコストと行政が容器包装リサイクルに費やす費用を情報公開することで、もっとも環境負荷の少ない、また経済的に効率の良い（税金を節約する）リサイクル活動を実現することが期待されます。

一般的にリサイクルにコストのかかる容器包装は環境負荷の高い容器包装という関係にあります。またリサイクルにコストのかかる容器は税金を多く使用する容器包装でもあります。リサイクルが回っていれさえすれば問題がないと言うのではなく、より環境負荷の少ないリサイクル、より社会的にコストがかからないリサイクルを追求することが今後重要となります。容器包装リサイクル環境会計によるリサイクル情報の開示で社会的にもっとも効率的な容器包装選択を消費者の皆さんと共に考えてゆきたいと思います。

(事例)

容器包装リサイクル環境会計の一例として容器ごとのリサイクルに要した企業内環境コストと自治体コスト（社会的コスト）を500mlボトルを基準に集計を行いました。リターナブルびんが社会的コストを低減する容器である事が判ります。

容器	企業コスト (容器包装リサイクル法コスト+ その他企業コスト)	自治体コスト (参考：30万都市 データ)	フルコスト (合計)	基準容器重量
透明びん	1円07銭	11円65銭	12円72銭	191.85 g
茶びん	1円18銭	11円76銭	12円94銭	同上
その他色びん	1円58銭	11円97銭	13円55銭	同上
ペットボトル	1円75銭	8円63銭	10円38銭	34.45 g
スチール缶・ 2ピース	1円85銭	4円14銭	5円99銭	47.00 g
アルミ缶	11銭	40銭	51銭	19.37 g
リターナブルびん	11円00銭	0	11円	198.50 g

1. 企業コストについては2001年度の宝酒造コストを記入しています。

・ 容リ法コストは酒類の「中味メーカー＋容器メーカー」金額を表示しています。

・ 本年のデータでは企業コストとして容器包装リサイクル法費用以外の企業の自主的リサイクル推進コスト等も算入しています。

・ リターナブルびん企業コストはリターナブルびん及び通い箱のワンウェイびんとの購入差額を推計で記入しています。

2. 自治体費用については全国平均的なデータは公表されていないため、西ヶ谷信雄氏の研究による30万都市での事例を参考データとして記入しています。

・ 自治体費用は西ヶ谷信雄氏の論文「『容器包装リサイクル法の再商品化コストについて事業者と市町村のコスト比較』平成13年度廃棄物学会研究シンポジウム講演 論文集 2001」をベースに記入しています。

・ 自治体コストは30万都市 直営収集でコンテナ使用のケースを記載しています。

・ アルミ、スチールの自治体費用は資源ゴミ売上げを差引きした金額です。

*現在「容器LCC研究会」に参加し容器リサイクルに関する企業コスト、自治体コストのより精緻なデータ収集作業を行っています。



ご案内

公益信託Takaraハーモニストファンド概要

1985年、企業理念制定と共に生まれた「TaKaRaハーモニストファンド」は水と緑を守る市民の方々の活動を資金面から援助してまいりました。全国で自然保護活動を行っておられる多くの方々のご応募をお待ちしております。

目的

日本の緑を構成する森林、木竹などの陸域の自然環境、または湖沼、河川等の水域の自然環境(水生生物の生態把握も含む)に関する実践的な研究・活動に対して助成を行います。

概要

委託者 宝酒造株式会社

受託者 みずほアセット信託銀行株式会社

信託財産 3億円

お問合せ先

公益信託 TaKaRaハーモニストファンド事務局 (担当:小林)

〒600-8006 京都市下京区四条通高倉角

みずほアセット信託銀行株式会社 京都支店 法人営業課

TEL.075-211-5521 FAX.075-241-2821

運営のしくみ